

# JIS

## プラスチック—引張衝撃強さの試験方法

JIS K 7160-1996

(ISO 8256 : 1990)

(2006 確認)

平成8年3月1日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

---

主 務 大 臣：通商産業大臣            制定：平成 8.3.1

官 報 公 示：平成 8.3.14

原案作成協力者：財団法人 高分子素材センター

審 議 部 会：日本工業標準調査会 高分子部会（部会長 三田 達）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部繊維化学規格課（〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## プラスチック—引張衝撃強さの試験方法 K 7160-1996

Plastics—Determination of tensile-impact strength (ISO 8256 : 1990)

## 日本工業規格としてのまえがき

この規格は、1990年第1版として発行されたISO 8256(Plastics—Determination of tensile-impact strength)を翻訳し、技術的内容及び規格票の様式を変更することなく作成した日本工業規格である。

なお、この規格で下線(点線)を施してある箇所は、原国際規格にはない事項である。

## 1. 適用範囲

1.1 この規格は、規定された速度の引張衝撃によって、プラスチック試験片を破断するときに要するエネルギーを測定する二つの試験方法について規定する。この試験方法は、比較的高いひずみ速度で行う引張試験の一種である。この試験方法は、試験片が軟らか過ぎたり、厚さが薄過ぎたり、また衝撃強度が大き過ぎるためにISO 179(シャルピー衝撃試験)及びISO 180(アイゾット衝撃試験)による試験が適用できない材料に適用できる。試験片の形によって異なる形状寸法などを規定している(6.1及び図3参照)。

1.2 この試験方法は、規定された試験片に規定の速度で衝撃を加えたときの挙動を調べ、その試験条件の範囲内で、試験片のもろさ及び粘り強さを評価する目的に使用する。プラスチックの比較的高いひずみ速度に対する応答を調べることは有用である。例えば、屋外暴露や熱劣化をした材料の引張衝撃挙動を調べることは、実用条件下の他の諸性質を調べることに同様に有用である。

1.3 この試験方法は、成形材料から作製した試験片又は最終製品若しくは中間製品(例 成形品、フィルム、積層品、押出成形板、注型板など)から採取した試験片に適用する。この試験方法は、生産管理だけでなく品質管理にも適用する。成形材料から作製した試験片を用いて得られる試験結果は、成形品の形状及び成形条件によって左右されるので、別の形の成形品に直接適用しない。

1.4 寸法の異なる型成形試験片を用いて得られる結果は、必ずしも一致しない。同様に、成形品を切削して作製した試験片と、成形材料から直接型成形したものと、同一寸法であっても試験結果は必ずしも一致しない。試験方法A法とB法による試験結果は、比較できる場合とできない場合がある。

1.5 この試験方法による試験結果は、部品の設計計算のデータ用には適さない。しかし、種々の成形条件で作製した種々の形の試験片による試験及び多くの試験温度における試験によって、材料の典型的な挙動を把握することができる。

2. 引用規格 次の規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。この規格の発行時点では、ここに示す版の規格が有効である。すべての規格は改正されることがあるので、この規格の使用者は、引用規格の最新版を適用できるかどうか検討するのが望ましい。

ISO 179 : 1993 Plastics—Determination of Charpy impact strength.

ISO 180 : 1993 Plastics—Determination of Izod impact strength.

ISO 291 : 1977 Plastics—Standard atmospheres for conditioning and testing.

ISO 293 : 1986 Plastics—Compression moulding test specimens of thermoplastic materials.